

2016年度 教育開発・支援センター 自己点検・評価報告書

基準 1 理念・目的

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画		
	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
(1) 付属機関等の理念・目的は適切に設定されているか						
a ◎高等教育機関として大学が追及すべき目的（建学の精神、教育理念、使命）を踏まえて、当該付属機関・委員会の理念・目的を設定していること。 【約500字】	センターは、「明治大学教育開発・支援センター規程」第2条において、本大学の教育理念及び教育目標を実現するため、全学的な教育支援体制に係る諸施策の立案及びその推進を図るとともに、組織的かつ継続的に教育内容及び教育技法の改善を行うことによって、効果的な教育活動の実践を支援・促進し、もって本大学の教育の発展に寄与することを目的とすると規定している。					
(3) 付属機関等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか						
a ●理念・目的の適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。 【約300字】	「明治大学教育開発・支援センター規程」第3条において業務範囲を、第4条から第12条において、組織構成及び議決手順を定め、理念・目的に沿った適切な執行を行っている。また、毎年度第1回目の運営委員会(2016年度は5月31日開催)において、規程を確認するとともに、自己点検・評価、年度計画書及び改善アクションプランについて審議し、前年度の活動実績と今後の改善方策を確認している。					

2016年度 教育開発・支援センター 自己点検・評価報告書

基準 2 教育研究組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画		
	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
(1) 付属機関等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか						
a ①教育研究組織の設置状況は理念・目的に照らし、適切であるか。学術の進展や社会の要請と教育との適合性について配慮したものであるか。 ●教育研究組織は、当該大学の理念・目的を実現するためにふさわしいものであるか。 【約300字】	センターの組織は、教務部長がセンター長を、教務部長が指名する副教務部長1名が副センター長を務め、副センター長ではない副教務部長及びセンター長が指名するセンター員(計5名)で構成されている。また、センターの運営に関して、「明治大学教育開発・支援センター規程」第7条に基づき、運営委員会が設置されており、運営委員は、センター長、副センター長及びセンター員のほか、各学部教授会、大学院委員会、法科大学院教授会及び専門職大学院委員会から推薦された専任教員並びに学長が指名する学長室専門員並びに教務事務部長で構成されている。なお、「明治大学教育開発・支援センター規程」第10条において、センター長が必要と認めるときは、運営委員会の下に専門部会を設置することができることとしており、全学的な諸施策の立案・推進及び新たな課題に対応することができる体制となっている。					
(2) 付属機関等の教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか						
a ●教育研究組織の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。 ●その検証プロセスを適切に機能させて、改善に結びつけているか。 【約500字】	毎年度第1回目の運営委員会(2016年度は5月31日開催)において、「明治大学教育開発・支援センター規程」の確認を行い、検証を行っている。					

2016年度 教育開発・支援センター 自己点検・評価報告書

基準 3 教員・教員組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述 中長期的対応 F列にあれば記述
(1) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか					
教員の教育研究活動等の評価の実施					
a ●教員の教育研究活動の業績を適切に評価し、教育・研究活動の活性化に努めているか。 【400字】	教育開発・支援センターでは、本学における教員評価のあり方について、FD・教育評価専門部会で検討を行っている。2016年度は開催しなかった。				
教員の資質向上のための研修・諸活動（FD）の実施状況とその有効性					
b ●教育研究、その他の諸活動（※）に関する教員の資質向上を図るための研修等を恒常的かつ適切に行っているか。 （※）社会貢献、管理業務などを含む『教員』の資質向上のための活動。授業改善アンケートの活用など『授業』の改善を意図した取組みについては、「基準4」（3）教育方法で評価します。 【600字】	教育開発・支援センターが主催する「新任教員研修会」を年2回開催しており、2016年度は第1回に38名が出席し、第2回は43名の出席があった。なお、本研修会の参加者には自由記述のアンケートを実施しており、その回答内容を集約し、次回の研修会プログラムの検討の参考にしている。 2016年9月29日開催の総合数理学部のFD講演会においては、「学生による授業改善のためのアンケート」の説明を行い、2016年11月10日に中野キャンパスにおいては、図書館と共催でアカデミックリテラシー研修会を開催し、中野キャンパスにおけるリテラシー教育の実践例の報告を行った。 また、FD研修会として、各教授会において「全学版シラバス作成の手引き」について教育開発・支援センター運営委員が説明を行った。				

2016年度 教育開発・支援センター 自己点検・評価報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画		
	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
(1) 教育開発・支援センターの授業科目は体系的に編成しているか						
順次性のある授業科目の体系的配置(履修体系図やコース系統図の明示, 科目相関図, 4年間の履修モデル, 適切な科目区分など)						
c ●教育課程の編成実施方針に基づいた教育課程や教育内容の適切性を明確に示しているか。(学生の順次的・体系的な履修への配慮) 【約400字】	教育開発・支援センターでは「国際教育プログラム」及び「国際協力人材育成プログラム」を運営している。「国際教育プログラム」は、各学部設置された英語による授業科目である「基幹科目」と各学部の日本語で実施される国際関係科目を活用した「選択科目」によって構成されており、配当年次と科目分類により段階的に履修することを明示している。また、基幹科目・選択科目はそれぞれ「異文化理解」「文化・歴史」「法律・政治」「経済」の4つの科目群に体系化され、基幹科目12単位以上(GPA2.5以上)、選択科目18単位以上を修了要件としてプログラムの修了認定を行っている。 また、「国際協力人材育成プログラム」において、体系的な履修の目安とするため、全科目にナンバリングを付している。プログラムには修了要件があり学生に提示している。 全学共通科目として設置している「グローバル人材」を育成する4つの全学部共通プログラム(「国際教育プログラム」「国際協力人材育成プログラム」「日本ASEAN相互理解プログラム」「グローバル人材育成プログラム」)を軸に、全学的なグローバル教育の取組を紹介する冊子「GLOBAL NAVI」を2014年度4月1日から発行している。「GLOBAL NAVI」は冊子のみならず、ホームページにおいても公開しており、学生の履修を促すとともに、学外へ取組の情報発信を行っている。					
教育課程の適切性の検証プロセスの明確化とその有効性						
d ●教育課程の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか	「国際教育プログラム」及び「国際協力人材育成プログラム」の検証プロセスについて、教育開発・支援センター運営委員会において、履修者数等を勘案し、教育課程全般にわたる改善や次年度の授業計画の方針について定めている。					

2016年度 教育開発・支援センター 自己点検・評価報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画		
	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
(2) 教育開発・支援センターの主催する授業科目は相応しい教育を提供しているか						
教育目標や教育課程の編成・実施方針に沿った教育内容(何を教えているのか)						
a ◎何を教えているのか。どのように教育目標の実現を図っているのか。 【400字程度】	「国際教育プログラム」の教育内容は、国際文化、国際関係法、国際政治及び国際経済等の理解を深めることであり、これらの科目は英語で実施する科目(基幹科目)と、日本語で実施する科目(選択科目)に分類されている。本プログラムを設置する目的は、これからの日本社会には、単に語学力だけではなく、全てにおいて、地球規模で考察し活動できる人材が求められおり、このような背景の中、世界的視野を持ち、国際舞台で活躍する人材を育成することである。国際教育プログラムは2007年度から開設しているが、2016年度までにプログラムの修了者を3名輩出した。 「国際協力人材育成プログラム」は平成24年度文部科学省選定「大学間連携共同教育推進事業」に採択された取組である。このプログラムは国際協力・国際公務への志向を持つ学部生が多く在籍する2大学(明治大学、立教大学)と国際社会で活躍する高度な専門的知識を持った職業人の育成を企図する大学院大学(国際大学)が協働し、正課教育において、全て英語を用いた講義で展開している。 「国際協力人材育成プログラム」は2段階のパスを設けており、教育目標は、グローバル共通教養を自らの言葉で表現することが出来る能力を身につけ(モチベーション・パス)、国際公務を目標の頂点とする国際協力人材を自らデザインできる人材を輩出する(キャリア・パス)ことである。					

2016年度 教育開発・支援センター 自己点検・評価報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画		
	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述 中長期的対応 F列にあれば記述	
(1) 教育開発・支援セッターにおける授業科目の教育方法は適切か						
教育目標と授業形態(講義科目、演習科目、実験実習科目、校外学習科目等)との整合性						
a ◎当該付属機関の教育目標を達成するために必要となる授業の形態を明らかにしていること 【約800字】	目的である効果的な教育活動の実践を支援・促進するため、「国際教育プログラム」では、各学部設置された英語による授業科目である「基幹科目」と各学部の日本語で実施される国際関係科目を活用した「選択科目」を「異文化理解」「文化・歴史」「法律・政治」「経済」の4つの分野で分類し、学生のレベルや興味に即した授業を提示している。 「国際協力人材育成プログラム」は、オムニバス形式の「グローバル・イシュー各論」と「グローバル共通教養総論」により、諸問題を包括的・体系的に把握する俯瞰力を養う。これらは、学生の趣向に合わせて総論と各論いずれからのアプローチも可能な仕組みとするため、春学期・秋学期をたすき掛けで開講し、相互補完・充実を図っている。その後、1主題を5回、合計3主題で構成するオムニバス形式の「ソリューション・アプローチ」により、キャリアへの方向性の模索を行う。当該科目は、学生の興味とキャリアへの方向性の模索を行うものであるから、テーマごとに明治大学又は立教大学で開講し、学生に組み合わせの選択をさせることとする。 また、国際大学の大学院生(各国政府現役官僚等の留学生)をTAとして配置し、終日、英語環境においてプレゼンテーション及びディスカッションを通してコミュニケーション力を養う「国際協力リテラシー(集中講義)」と少人数(ゼミナール形式)で個別のテーマへの理解を深めるために、フィールド・スタディなどを行う「アクティブ・リサーチ」を開講している。					
学生の主体的参加を促す授業方法(学習支援、TAの採用、授業方法の工夫等)						
e ●学生の主体的な学びを促す教育(授業及び授業時間外の学習)を行っているか。 【なし～800字】	「国際教育プログラム」は、各学部設置された英語による授業科目である「基幹科目」と各学部の日本語で実施される国際関係科目を活用した「選択科目」を二本の柱として、教育方法は主に講義形式で行い、基幹科目では平易な英語を使用した講義を展開する。なお、プログラムの修了要件を満たした学生には修了証を交付することとしており、2016年度までに3名が修了した。 「国際協力人材育成プログラム」は、修了要件を満たした学生に修了証を交付している。「国際協力人材育成プログラム」では、大学間連携による履修効果を高めるため、学生の学習成果の測定、学習経験の把握、教育方法の改善活動(FD)、連携大学の学生との意見交換などを実施するためのツールとして、「eポートフォリオ」システムを使用している。さらに、一部の科目にTAを採用し、授業の録画や教員のフォローを行っている。録画した授業はネットで配信しており、履修者が復習することができる環境を整えることで、英語による授業の理解度を向上するよう努めている。					

2016年度 教育開発・支援センター 自己点検・評価報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述	中長期的対応 F列にあれば記述
(2) シラバスに基づいて授業が展開されているか						
a ◎授業の目的、到達目標、授業内容・方法、1年間の授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしたシラバスを、統一した書式を用いて作成し、かつ、学生があらかじめこれを知ることができる状態にしていること 【約300字】	2017年度から導入される100分14週授業及び各種補助金要件等に対応したシラバスを作成するため、全学統一の「シラバス作成の手引き」を作成し、事務担当者向けに説明会を行った上で、シラバスの執筆を依頼した。なお、シラバスは、新学期の授業開始前にOh-o! Meijiにおいて公開するとともに、学生に冊子として配付し、履修計画を立てる際の科目選択のためのガイドとして活用している。					
b ●シラバスと授業方法・内容は整合しているか(整合性、シラバスの到達目標の達成度の調査、学習実態の把握)。 【約400字】	「学生による授業改善のためのアンケート」に「シラバスに示されていた学習目標、内容と合致していましたか」という設問を設け、実際の授業との整合性を確認できるようにしている。					
c ●単位制の趣旨に照らし、学生の学修が行われるシラバスとなるよう、また、シラバスに基づいた授業を展開するため、明確な責任体制のもと、恒常的にかつ適切に検証を行い、改善につなげているか。 【約400字】	シラバスに「準備学習(予習・復習等)の内容」という記載項目を設け、準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間を明記している。また、「国際協力人材育成プログラム」は、教育開発・支援センターのほか、立教大学及び国際大学との3大学並びに協定を締結しているステークホルダーによる協議会において授業の適切性について検証を行っている。					

2016年度 教育開発・支援センター 自己点検・評価報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述 中長期的対応 F列にあれば記述
(3) 教育開発・支援センターにおける教育課程の改善、授業方法の改善に向けたFD活動について					
a ◎教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けていること。 【約800字】	「教育開発・支援センター」において、「学生による授業改善のためのアンケート」の実施を中心とした授業改善に取り組んでいる。 なお、ここ数年、専任教員のアンケート実施率が50%程度と低かったため、2017年度より、学部ごとにアンケートの実施学期を指定し、該当学部の全専任教員(特任を含む)は1科目以上の実施を必須とすることとした。また、全学部の専任教員(特任教員を含む)に対して、アンケート実施科目及びアンケート用紙の受け取り方法の事前調査を行い、各教員の希望に基づいてアンケート用紙を準備することにより、教員のアンケート実施の負担を軽減することとした。				
b ●授業アンケートを活用して教育課程や教育内容・方法を改善しているか。 【約400字】	「学生による授業改善アンケート」は、毎年春学期と秋学期に各1回、年2回実施しており、2016年度については、春学期は2,305科目、述べ93,943名の回答があり、秋学期は2,148科目、延べ70,636名の回答があった。アンケートの集計結果は個々の教員のほか、学部長宛に学部の集計結果を送付しているが、授業改善への取組みは個々の教員に委ねられている。2012年度から全学的な改善方策を検討するため、教務部長にアンケート結果が公開され、全学の視点で検証を行うことができるようにし、全体の集計結果については、本学ホームページに掲載し、公表を行っている。				
c ●教育内容・方法等の改善を図るための責任主体・組織、権限、手続プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか 【約400字】	「国際協力人材育成プログラム」は、立教大学及び国際大学を含めた科目担当教員とのワーキンググループで授業計画及び科目の進め方について検討を行い、授業計画については、教育開発・支援センターにおいて審議、承認している。				

2016年度 教育開発・支援センター 自己点検・評価報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 4. 成果

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述 中長期的対応 F列にあれば記述
(1) 教育開発・支援センターにおける課程修了時における学生の学習成果指標の開発と成果の測定について					
a ●課程修了時における学生の学習成果を測定するための評価指標を開発し、適切に成果を測るよう努めているか。	「国際協力人材育成プログラム」については、教育開発・支援センターにおいて開発したルーブリックによる学習成果の測定を行っている。				
b ●学習成果の「見える化」（アンケート、ポートフォリオ等）に留意しているか。	「学生による授改善のためのアンケート」の集計結果報告書を各学部長・大学院長宛に送付するとともに、学生が窓口で閲覧できるよう依頼している。				

2016年度 教育開発・支援センター 自己点検・評価報告書

基準 10 内部質保証

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
			当年度・次年度対応 F列にあれば記述	中長期的対応 F列にあれば記述		
(1)大学の諸活動について点検・評価を行い、結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか						
a ◎自己点検・評価を定期的実施し、公表していること 【約400字】	毎年度第1回目の運営委員会(2016年度は5月31日開催)において、自己点検・評価を実施し、確認を行っている。					
(2)内部質保証を適切に機能させているか						
a ●自己点検・評価の結果が改革・改善につながっていること ●学外者の意見を取り入れていること ●PDCAサイクルを回すための、Check(点検・評価)およびAction(改善)の具体的内容・工夫	毎年度第1回目の運営委員会(2016年度は5月31日開催)において、自己点検・評価、年度計画書及び改善アクションプランについて検討を行い、前年度の活動実績と今後の改善方策を確認している。					